

第2回さいたま市スポーツ振興審議会会議録

1 日時 令和7年8月26日（火）14時00分から16時00分まで

2 場所 さいたま市役所議会棟第1委員会室

3 出席者

（1）委員（10名）

小川 智一、佐藤 正伸、武田 健太郎、武田 弓佳、長岡 有実子、野津 美智代、
兵藤 明子、堀越 悠、牧野 奈津子、森 士（敬称略）

（2）事務局（9名）

石塚スポーツ文化局長、大熊スポーツ部長、
細渕スポーツ振興課長、池田スポーツ政策室長、折茂スポーツイベント課長
（スポーツ政策室）青村室長補佐、島村主査、大久保主事

4 欠席者

（1）委員（3名）

安藤 梢、上林 功、吉川 洋一（敬称略）

5 傍聴人 0名

6 公開又は非公開の別 公開

7 問い合わせ先

さいたま市 スポーツ文化局 スポーツ部 スポーツ政策室
TEL 048-829-1737

8 内容

（1）開会

委員13名中10名の出席により、会議が成立した。

（2）委員等紹介

司会より、新たに就任した委員を紹介した。

（3）議題

事務局より、議題（1）第2期さいたま市スポーツ振興まちづくり計画素案について、資料1「第

1 回審議会における主な意見」及び資料 2「中間見直しの方向性」について説明。その後、資料 3「改訂箇所と改訂のポイント」及び資料 4「さいたま市スポーツ振興まちづくり計画(改訂素案)」について、序章から第 2 章まで説明した。

(佐藤会長)

ただ今、事務局から説明いただいた資料 1「第 1 回審議会における主な意見」が皆さまからいただいた意見をまとめたものです。また、計画ができてから今日までの数年間の国あるいは社会状況の変化を受けて中間見直しをするということで、計画を考える前提となる計画素案の第 2 章までの部分が修正されていますが、実は本日一番ご意見をいただきたいのは、この後に説明いただく第 3 章以降となります。第 2 章までの今の説明に対しては、ご質問を中心をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

(説明に対する質疑なし)

(佐藤会長)

よろしければ、中核となる第 3 章以降、59 ページ目以降に進みたいと思います。それでは、よろしくをお願いします。

事務局より、資料 3「改訂箇所と改訂のポイント」及び資料 4「さいたま市スポーツ振興まちづくり計画(改訂素案)」について、第 3 章から第 6 章まで説明した。

(佐藤会長)

ありがとうございました。ただ今、事務局から計画素案の後半部分についての説明がありました。本日は 65 ページからの第 4 章の各事業の見直し部分について、特にご意見をいただきたいという事務局の希望があります。もちろん、その前の第 3 章でも結構です。今日のご意見を踏まえて次回で計画案を答申としてまとめ、市長にお返しする予定になっていますので、いただくご意見は、事務局にとってかなり重要な検討資料となることを踏まえて、ご意見を頂戴できればと思います。

まず、2 分程度ずつ出席委員 9 名からご意見をいただき、その後に意見を追加していく流れで考えていますので、前回同様、席順でご意見を賜りたいと思います。小川委員からどうぞよろしくお願いします。

(小川委員)

市民公募委員の小川です。意見がまだまとまっていませんので、一通りしてから、発言させていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

(佐藤会長)

そのような流れで考えます。それでは、武田健太郎委員、よろしくお願いします。

(武田(健)委員)

さいたま市立病院、スポーツ医学総合センターの武田と申します。概ね良いのではないかと感じながら拝見していました。

ただ、お話のあった中で、30代、40代のスポーツ機会が少ないというところに対して、70ページの「2. 体力や健康に貢献する「する」、「みる」機会のさらなる充実を」の「③健康増進につながるスポーツの振興」の中で具体的な事業がいろいろ出ているかと思いますが、ここは既に行われていることが記載されていて、私もイベントは様々出ていますが、このような取組は結構なされていると思います。このままだと、今までと同様に、高齢者か若い方が来るだけで、中間層の30代、40代の方々の参加を増やそうという取組はあまり見受けられない印象です。さいたまスポーツフェスティバルなども含めて、もう少し今までとは違うプラスアルファがあっても良いのではないかと感じながら伺っていました。今のところはその点です。

(佐藤会長)

ありがとうございました。では、武田弓佳委員、よろしくお願いします。

(武田(弓)委員)

レクリエーション協会から参りました武田です。今の武田健太郎委員の発言に関して、レクリエーション協会ではレクリエーションフェスティバルを開催し、小学校、幼稚園などに宣伝して参加してもらう形にしています。そうすると必ず30、40代のご両親がついていらっしゃると思います。レクリエーション協会なので本格的なスポーツとはいきませんが、親子で楽しめるようなスポーツを行っています。ただ、回数的には年1回程度しかできないので、それをきっかけにその後も続けていただくということにもっと力を入れなければいけないと思っています。

また、今回、ねんりんピックという項目が入ったことはとても嬉しく思っています。これまで10回以上参加させていただく中で、問題提起したいと思うことが多々ありました。一つには、ねんりんピックは60歳以上が対象なのですが、スポーツをされる方はたくさんいらっしゃって、80代の方も大会に参加なさっています。それなのに60代の方が入ってこられると、高齢の方から「足手まといになるから遠慮します」というお話も出てきているので、対象を65歳以上とか68歳以上に変えていただくと、もっと高齢者の方が楽しめるのではないかと思っています。それ以外はとても整理されていると思います。

最後に、スポーツ施設の環境整備について、つい先ごろ修復された大宮体育館の冷房の設備が利用者にとっては使いづらい状況です。例えば、昼間などいろいろなチームが使っていて、武道館などではそれぞれのエリアごとに冷房をお願いできるようになっていますが、大宮体育館に関しては、全体で冷房を入れるか入れないかになるので、チームによって希望が異なり、結局冷房を入れられず暑いのを我慢して使うようなことになってしまいます。もう少し利用者の意見を聞いた上で、どういう機械を導入するかなどを考えていただくとありがたいと思います。

(佐藤会長)

ありがとうございました。それでは長岡委員からご意見をいただきたいと思います。

(長岡委員)

まちづくりに関して、「サッカーを核としたスポーツのまちづくり」ということで、壮大な振興計画ですごいなと思いながら伺っておりました。

「サッカーを核とした」というところが強く打ち出されていますが、野球、バスケット、卓球、ランニングなど、幅広いスポーツがあります。「みる」面ではサッカーも良いが、実際に「する」となるとランニングやランフェスなどがとても好評で、そんなに費用もかからずにやれるのではないかという感想を持ちました。それから、ボランティアについても学校も精一杯協力していきたいと思っているので、みんなで、さいたま市がスポーツが活発なまちになるように、どの年代も、どの団体も協力し合いながら盛り上げていけば良いな、と思って伺っておりました。

(佐藤会長)

ありがとうございました。では、野津委員よろしくお願いします。

(野津委員)

大変分かりやすく、良いと思いました。

65 ページの「プロ・トップスポーツチームなどとの連携」について、小体連では、レッズやアルディージャ、ブロンコスと連携しています。計画にはプロの良いプレーを見たりプロに直接教えてもらえると書いていますが、小体連では「みる」ところまでで、一緒に教えてもらうところまではいけていません。子どもたちのスポーツの裾野を広げることはプロチームにとっても良いことだと思うし、子どもの夢を育むということにもつながるので、促進していただきたいと強く思いました。

もう一点、意識調査の 21 ページ、22 ページで 30 代に関して課題があるとあがっていました。30 代というと小学校低学年や幼稚園、保育園の児童の保護者の年齢層です。第 1 回でもお話ししましたが、親子での体験機会を設けて、親子で一緒に楽しさを感じ、家でもやってみようとか、近くの公園でもやってみようとか、そういった、日常で運動ができるような提案やイベントがあると、30 代も子どもと一緒に楽しむことができるのではないかと感じました。

それと、66 ページの「スポーツにおける託児の確保」は、是非促進していただきたいと思いました。自分自身が振り返っても、子どもがいたとなかなか運動に親しむ機会がなく、しばらく運動をしていないというのが 30 代でした。その時に託児施設があり子どもを預かってもらえれば、自分はヨガをやったり、体や心のメンテナンスができます。すると、やがて子育てが終わった時にも、もう一度スポーツをやってみようとなるかもしれない。この点は子育てを体験した親としても促進していただけるとありがたいと思いました。

(佐藤会長)

ありがとうございました。それでは、兵藤委員、お願いいたします。

(兵頭委員)

私は、さいたま市スポーツ少年団本部長をしており、35 年ほどスポーツ少年団の活動に関わっ

ております。

市内では、幼児から高齢者までいろいろな方々が楽しみながらスポーツに親しみ、それが体力の向上や高齢者の医療費にまで関わってくると考えられます。本当に幅広くいろいろな面からまとめていると感じました。

自分の領域では、部活動関連のことや、総合型地域スポーツクラブとスポーツ少年団が一体化して新しい組織になることが日本スポーツ協会でもとまっているというようなお話も聞いています。今後の活動がどうなっていくのか、指導者の制度がどうなっていくのかということが非常に気にかかっているところです。小学生年代のスポーツはほとんどの指導者が無給の状態ですが、指導者資格等が有料になってきて持ち出しが多くなり、苦勞する方が多いのではないかと思いますし、しっかりとした指導者が育っていく基盤がもっとできてほしいと思います。経験したことのあるスポーツから指導者に入っていく方が非常に多く、努力して勉強して資格を取ったりしていますが、経済的にどこからもバックアップがないので、そういう人たちの支えで多くのスポーツが成り立っているということをぜひ皆さんにも知っていただきたいと思っています。

話が少し違うかもしれませんが、先週の新聞に、スポーツ庁が学校施設を民間の事業者に開放してシニア層の方々にスポーツを広めていくという記事が載っており、既に学校施設の開放がされている中で民間企業まで入って来てどういう形で成り立つのか、施設開放の現状を全て分かったうえで方針が出されたのかなど、危惧するところではあります。

(佐藤会長)

ありがとうございました。では、堀越委員、よろしくお願いいたします。

(堀越委員)

市民公募委員で、堀越と申します。

私は完全在宅が基本で、ほとんど座りっぱなしの仕事なので、能動的に運動しないと全く動かない状況になっていますので、定期的に運動に取り組もうと近所の運動公園の施設利用を始めました。以前にも大宮の体育館を利用したことがありますが、施設が若干古いことと、同じ人が同じマシンを占拠している状態が見受けられたので、この辺りをどうにか整理できないかと考えています。また、他市のスポーツセンターも見てみたところ、大きく設備も充実していたので、この辺りをうまく整備していければと考えていましたが、今回の改訂で施設整備も中心的に取り上げられていましたので期待したいと思います。また、89ページのデジタル技術部分で発信を連携してやってもらえれば、あまりアンテナの高くない方々でも拾いやすくなるので、是非30、40代のスポーツが活性化していけばというのが私の願いです。

(佐藤会長)

ありがとうございました。では、牧野委員よろしくお願いいたします。

(牧野委員)

さいたま市のスポーツ推進委員連絡協議会から参りました、牧野です。

今、地球温暖化によって、スポーツができる場所が足りなくなっているのではないかと思います。以前は、気温 30 度というとても暑く感じていましたが、今年は 39 度まで上昇しており、体育館のような施設は冷暖房が効くようでない安心して身体を動かす事ができないのではないかと思います。また、これから体育館を作るところについては、冷暖房はもちろん、観客席も作っていただきたいと思います。子どもがスポーツを楽しんでいるのを親や地域の子どもたちが気軽に応援する事もできます。また、学校施設等が使えないときに地域の大会としても利用できます。さいたまスーパーアリーナのような大規模施設ではなく中型の体育館をしっかり整備していく必要があるのではないのでしょうか。これからの地球温暖化に対する施設整備を今から考えて進めていくと良いと思います。

そして、小学生の父母に関してですが、教育委員会が市のホームページで各区分に配信する情報がありますが、8 月からはスポーツイベントも掲載させていただけるようになりました。身近な小学校でこんなイベントができるというのを親が直接見る事ができるようになり親が子どもと一緒に参加してくれるのではないかと期待していますが、天候によって左右されない施設が重要だと感じます。

市民に関して言えば、マラソン、スケートボード、バスケットはどこでもできて、すごく人気があります。公園は憩いの場とか災害時の避難場所だけではなく、いつでもどこでもだれでも身体を動かせる広場であり、子どもたちが自発的に片付けてくれたりするような習慣を身に付けていく声掛けをしていくと良いのではないかと思います。

最後にスポーツボランティアに関してですが、競技に携わるボランティアだけではなく施設内を案内してくれる方、飲食を提供してくれる方、そういう一般的なボランティアも段階的に作ってみてはいかがでしょうか。そうすると、学生などは身近に競技を見て触れ合えるので「やってみようかな」と考えると思います。市民に人気のあるマラソンは特にそうです。さいたまマラソンも、もっと魅力あるボランティア活動ができるものに盛り上げてほしいです。

(佐藤会長)

ありがとうございます。では、森委員、よろしくお願いします。

(森委員)

浦和学院高校で副校長、そして学校の施設を活用してファイアーレッズメディカルスポーツクラブという小学生や中学生を中心としたスポーツ活動を行っています。

4 年ほど前まで浦和学院高校で野球部の監督をしていましたが、今は子どもたちにスポーツの場を広げていくとともに、スポーツを通じて指導者の育成をするような活動をしています。

この夏休み 40 日のうち、火、水、木、金の週 4 回、4 週間の計 16 日間、朝 7 時頃から 11 時頃まで野球を中心としたスポーツ活動、その後は水風呂に入って、それから昼食をとって昼寝をして、その後に夏休みの宿題をするようなサマースクールという活動を子どもたちと行っていました。最初からグラウンドでは多分熱中症になってしまうので、エアコンの効く体育館でストレッチからウォーミングアップを行い、徐々に暑いところに入っていくようにしたところ、熱中症になった子は 1 人もいませんでした。また、定員オーバーするくらい大盛況でした。何が言いたい

かと言うと、とにかく場所と人がこれからのスポーツでは一番大事だと思うので、隣接自治体も含めて、閉校した学校など空いている場所を有効活用していくことができるのではないかと考えています。美園北小学校は校舎が足りずにグラウンドにプレハブを建てていますが、周囲にたくさんある施設をなかなか開放してもらえないということを考えると、もっと有効活用できるところがあるのではないのでしょうか。

本校のサッカー場は数年前から人工芝になり、子どもたちがはしゃぎ回れる施設です。そういう施設をスポーツをしている子どもたちに開放してもらい、サッカーや野球だけではない、いろいろな活動ができる広場になるので、そういう場所の開放を具体的に考えていただけると現場としては非常にやりやすいと感じます。

ボランティアのお話がありましたが、うちは3歳から9歳までの子ども達にまず体を動かしてもらうため、ダンス教室を実施しています。子どもたちが集まると收拾がつかないので高校生のボランティア募集をしたところ5、60人集まってくれました。ボランティア証明書を配布すると、それが進路においても有意義になることもありますし、高校の夏休みの宿題でボランティア活動を奨励している学校もあるので、専門の知識がなくても、お兄ちゃん、お姉ちゃんが一緒に動いてくれることがとても大きなボランティアだと思います。

ボランティアの内容ごとに、ご年配の方から若い世代まで、まちぐるみでマンパワーを集めるような手段を考えると、予算がなかなか取れないものにも人が集まってくれる可能性があるのではないのでしょうか。

サマースクールが人気だった一番の理由を考えると、やはり30代、40代ぐらいの小学生、中学生の親御さんはほとんど共働きで働き盛りなので、お子さんを1日預かってくれて、なおかつ食事までとらせてもらえることかと。いろいろな施設を開放して作り込みをしていくことで、もっとイベントの開催を増やしたり、各エリアごとでそういう活動を広げて開催していく、子ども食堂と組みながら一緒にイベントとして親子で盛り上がるとか、とにかく外に引っ張り出すとか、そんなイベントを考えることも一つの手ではないか、と現場にいる人間としてアドバイスをさせていただければと思いました。

(佐藤会長)

ありがとうございます。本日いただいたご意見をもとに事務局で各施策・事業を修正して次回、提示されるとのことなので、残りの時間を活かせたらと思っています。

皆さま方からいただいた意見は二つの方向性があると考えております。かなり具体的にこうしたら良いのではないかと、という方法の部分と、どちらを向いていくのだろうかという目的の部分です。

目的の部分に関して今一度確認すると、65ページの「1. 広く深く「まなぶ」「ささえる」基盤をより強固に」というのが目的で、これに対して、こうしたら良いのではないかとという方法があります。68ページでは「2. 体力や健康に貢献する「する」「みる」機会の更なる充実を」という大きな目的があり、それに対して、こうしたら良いのではという方法があり、三番目には「活力のある先進都市を作る「成長」のための連携を」という目的になってきます。ご意見を聞いてみますと、1、2の目的に対する方法やご意見が多かったです。一方で国の施策として、今、スポー

ツは、地域づくり、まちの活性化、コミュニティづくりという、まちづくりのためのスポーツという色が全面的に出てきています。3の「活力のある先進都市を作る「成長」のため」というところについて、先ほどのご意見の中でも「さいたま市にもっと魅力を」というものがありましたので、3についてのご意見を賜りたいと思います。

それからもう一点が87ページです。スポーツ関連団体と市民と事業者、企業等が組んで、さいたま市の魅力を高めていくということになります。十数年前から「新しい公共」という言葉が使われています。公共はいわゆる公共団体が作り出すというのが古い発想でしたが、そうではなく、市民も参加して公共物を作っていこうという発想です。そうしないと、スポーツ以外にお金を使わなければいけないところにお金が向かなくなります。ですので、市民の方々に関わっていただき、ある程度一定の利をあげてもらって、結果として市民が関わって適正な公共物を作っていくことが求められている状況になっています。

もう一点、施策が実現できたかを測るものとして成果指標というものがあります。

以上三つ、まちづくりという観点での提案に対する具体的なお意見、それから、その関連になりますが、産・官・民という形で協力し合って公共を作っていくということに関するご意見、そして最後、今は中間年ですが、次回、実現できているかどうかを測る成果指標という三点についてご意見を賜り、事務局に伝えて次回の計画案のための情報源にしてもらえればと思っています。いかがでしょうか。

(小川委員)

先ほど、最初にお話ができなかったのをお願いします。

3番の「活力のある先進都市をつくる「成長」のための新たな連携を」についてですが、やはりさいたま市はサッカーです。大宮と浦和の二大Jリーグチーム、大宮がJ2に上がりレッドブルという大きなスポンサーがつかしました。やはりサッカーをメインでやっていくのが良いと思いますので、市の方で、浦和对大宮の試合や大きな大会を企画するとか、まちを挙げて大宮と浦和の二大チームのライバル心をかき立ててやっていくのが良いのかなと思います。浦和と大宮は色をしっかり分けてでも、何かと結びつけて大きな大会を企画してもらおうと、サッカーを始め、スポーツが充実していくのではないのでしょうか。

それから、87ページの計画の推進主体としての市民の関わりというところですが、市内に空き地が結構あるので、そういうところに気軽に使えるようなグラウンドや施設を作り、気軽に使えるようにすること、各スポーツの道具についても気軽に借りられるようになると、スポーツに優しい市という形になると思います。

さらに、施設に行くときの交通手段です。市民が大会で使えるようなアリーナ、運動場、グラウンドは駐車場が充実していて車では行けますが、駅から遠く交通の便が悪いと大会をそこで開いても面白くない、というようなことになるので、交通の便が充実しているとスポーツが発展していくと思います。

(佐藤会長)

ありがとうございました。84、85ページの成果指標のあたりでご意見がありましたらお願いし

ます。特に今回は成人の週1回のスポーツ実施率を、もう既に70%はクリアしたので75%に上げたというご説明がありました。他も決して悪い値ではないですが、高止まりしてまだ届いていないということで、高い数値目標を提示しています。「目標を下げる」というのはなかなか難しいと思いますが、新しい試みもありますので、こんな指標があっても良いのではないかとのご意見をいただけたらと思います。例えば、今日、施設の利用に関する視点、また、スポーツのボランティアに関しても様々なボランティアがあるというお話があったかと思います。全てのご意見は必ずしも答申に反映されるわけではありませんが、多くのご意見から良い答申をと考えております。いかがでしょうか。

(牧野委員)

施設の数というお話があったので、一言よろしいでしょうか。さいたま市は10区ありますが、体育館のあるところは4区ぐらいです。あとの6区は自分の区にはなく、小学校や中学校その他の施設を学校及び校庭開放委員の方々ご協力や譲り合いでなんとかスポーツをしているという状況なので、1区に一つは体育館が欲しいと思います。スポーツをするためだけではなく避難場所としても地域の集まりとしても、いろいろな意味で使えるということを考慮していただきたいと思います。

また、最近は特に暑いので、公園にも天候に左右されず遊べる施設があれば良いと思いますので、なんとか施設を増やしてもらいたいです。

(佐藤会長)

ありがとうございます。もし体育館を作ろうとすると、費用を出せたとしても企画から実施まで数年かかり、成果指標としては使いにくいかと思います。そこで、例えば、既存の施設の稼働率などを指標に入れていただけたら良いかと思っております。実は、施設整備に関する国の政策が、県と市のそれぞれに目標を設定しています。市民が使いやすいような施設は市が作っていく、競技会をやるような施設は県が作っていく、というのが古い施策ですが今でも生きています。さいたま市の規模の政令市ですと、両方を備えることが期待されるという難しさがあります。

学校の先生にはご不満もあると思いますが、子どもの数は急速に減少していますが市民の数はそう変わりませんので、学校施設の一般開放が解決の一手かだと思います。この学校施設の一般開放と市内にある施設の利用状況について、利用者の年齢層を踏まえた使用状況を指標として加えると、例えば「30代、40代の方の利用が少ない」などと、仮に悪い結果であっても、それが分かることで次につながっていくと考えています。

時間が過ぎましたが、最後に私の意見を添えさせていただきました。

本日は皆さまのご協力により、本当に多くの意見を出していただくことができたと思います。今回はこれを基にいいよということになります。この間、事務局には大変なご面倒、ご苦労をおかけすることになると思いますが、ぜひ、本日のご意見をうまく拾っていただきまして、良い案を作っていただければと思います。また皆さまも、次回もぜひ引き継ぎ忌憚のないご意見を頂戴できればと思います。

(4) その他
なし

(5) 閉会